

オーディオに興味を持ったのは、中学の頃だったから約70年も前になる。徒に馬齢を重ねて、年齢だけはクラブでは最年長組だが、もって生まれたオッチョコチョイの独断と偏見のうえ、雑誌、本は読まないうえに勉強不足で最近の情報に疎く望遠鏡を逆さに見ている状況。

本題もクラブのHPに掲載の第1報から第3報の続編で少し重複している内容もある。妄言、暴言、狂言多謝。

1、ハイレゾ

ハイレゾリューション(高分解能?)にわずらされるな。
酒、ウイスキー、ブランデーはコク(不純物)で評価される。
ハイレゾならエチルアルコールを飲めばよい。
味も素っ気もない音が音楽なものか。

2、中古品

新品の1/10以下で手に入る。
程度がバラバラなのが難だが、コスト的にメリットが大きい。
現在生産中止の製品は、中古しか手に入らない。
使用程度によりお得なことが多い。
貧乏人は中古を狙うべし。

3、マニア

目つきが常人と違い、異様な雰囲気漂う。
常に一番でありたいので、無理をして背伸びをしている。
問題はまともな人が感化されて、仲間に引き入れられることだ。
君子危うきに近寄らず。

4、メーカー

オーディオ専門メーカーは消滅に近い。
ガレージメーカーが細々と生産している。
新製品の研究、開発は今後どうなるのか。
かつてのようなオーディオブームは再来するのか。

5、専門雑誌

ユーザーが限定されるため数が少ない。
超高級(=超高価)のものばかりで、初心者には手が出ない。
初心者、初級の人向けのものは商売にならないのか。

6、エセ科学

電気技術が主なのだが聴覚という感覚の世界が存在するため、非科学的要素が入り込みやすい。もっともな理屈をこじつけて、ユーザーを騙し製品を売りつける輩に要注意。

7、重量主義

故長岡先生はアンプは重いほど良いと重量主義を唱えた。鉄の塊のような重量アンプで腰を痛めたユーザーは多いはず。儲かったのは製鉄メーカーだったか。1g以下のICチップで性能抜群のアンプがあるがどうなのか。

8、試聴室

スピーカーは部屋を選ぶという。大金持ちで無ければは持てない。専用のオーディオルームを作れば、数百万、数千万の金が飛ぶ。これほど金のかかる趣味は少ない。日本の住宅事情から完全防音の素晴らしい試聴室を持てるのは、一握りの金持ちのマニアのみ。一般の庶民には夢のまた夢物語。

9、スピーカー

原理も形態も発明当時と大差ない。材料、原料が新しい素材を使っているだけで、技術的進歩は少ないのでは。それとも発明そのものが、最初から完成していたのか。

10、オーディオブームはもう来ないのか。

今の若い人は、ラジカセ、イヤホーンの音で満足しているのか。大型の装置は費用、場所などから敬遠されているのだろうか。オーディオマニア的傾向は最初から持っていないのか。これではオーディオブームは二度と来ないのではないか。

今回の「やぶにらみオーディオ論」はその4です。1から3までをお読みにになりたい方はHPの「エッセイ」から1の「オーディオ全般」を選び「やぶにらみオーディオ論」をお読みください。

